

令和6年度
発生予察情報

発生予報第7号（概要版）

令和6年8月5日発行
宮城県病害虫防除所
(TEL:022-275-8982)

品目	病害虫名	発生予報	病害虫名	発生予報
水稲	穂いもち	発生量: 平年並	斑点米カメムシ類	発生時期: 早い 発生量: 多
	紋枯病	発生量: やや多	—	—
大豆	紫斑病	発生量: 平年並	ハダニ類	発生量: 平年並
	アブラムシ類 (ジャガイモヒゲナガアブラムシ)	発生量: やや少	フタスジヒメハムシ	発生量: 平年並
	ウコンノメイガ	発生量: 平年並	マメシクイガ	発生量: 少
	吸実性カメムシ類	発生量: やや多	—	—
りんご	斑点落葉病	発生量: やや多	キンモンホソガ	発生量: 平年並
	ハダニ類	発生量: 平年並	果樹カメムシ類	発生量: 多
なし	黒星病	発生量: やや少	果樹カメムシ類	発生量: 多
	ハダニ類	発生量: 平年並	—	—
秋冬ねぎ	黒斑病・葉枯病	発生量: 多	ネギハモグリバエ	発生量: 多
	ネギアザミウマ	発生量: 多	シロイチモジヨトウ	発生量: 多
いちご	うどんこ病	発生量: やや多	ハダニ類	発生量: 多
	炭疽病	発生量: やや多	—	—

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第8号の発行日は8月26日(月)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ
トップページ 登録フォーム



ー8月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月25日～30日

定点調査ほ:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台8月1日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
穂いもち	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、葉いもちの発生地点率及び発生量は平年並であった。(/ ±)
- (2) 曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並(/ ±)、日照時間は平年並か多いと予報されている。(/ - ~ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
紋枯病	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並、発病株率は平年よりやや高かった。(/ ± ~ +)
- (2) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期 (第2世代成虫発生盛期)	発生量
斑点米カメムシ類	早い (8月第2半旬:8/6~8/10)	多

予報の根拠

- (1) 定点調査及び有効積算温度シミュレーションの結果、アカスジカスミカメの第2世代成虫発生盛期は平年(8月第4半旬)より早い8月第2半旬と予測される。(- /)
- (2) 巡回調査の結果、本田における斑点米カメムシ類の発生地点率は平年より高く、すくい取り虫数は平年より多かった。(/ +)
- (3) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(- / +)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>
- ・県全体の出穂期は7月29日で平年(8月1日)より3日早かった(宮城県みやぎ米推進課7/30発表)。移植時期の遅いほ場や晩生品種についても、ほ場の出穂状況を参考に各病害虫の適期防除を実施する。

(2) 穂いもち

- ・上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源になる。葉いもちの発生が確認された場合は速やかに茎葉散布剤を散布する。
- ・茎葉散布剤を使用する場合は、ほ場をよく観察し、1回目を出穂直前、2回目を穂揃期に実施する。
- ・「金のいぶき」は穂いもちの抵抗性がやや弱いいため、穂いもち防除を3回実施する。

- ・直播栽培では、移植栽培より生育ステージが遅く、全般に葉色が濃く推移しやすいことから、葉いもちが発生しやすく、穂いもちに移行しやすい傾向があるので、茎葉散布剤による防除を実施する。
- ・BLASTAM による葉いもちの感染好適条件の推定結果は、以下のHPを参照する。なお、8月1日時点では、感染好適条件の連続した出現は確認されていない。
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

(3) 紋枯病

- ・前年に形成された菌核が翌年の伝染源となるため、紋枯病が前年に発生したほ場では要防除水準を参考に防除を検討する。
- ・要防除水準:「ひとめぼれ」の減収率を5%以上と想定した場合、穂ばらみ期の発病株率は18%以上となる。要防除水準に達した場合、防除を実施する。
 ※普及に移す技術第90号参考資料「イネ紋枯病の新しい要防除水準」
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/305990.pdf>
- ・防除は穂ばらみ期の水面施用剤又は穂ばらみ期～出穂期の茎葉散布剤を施用する。
- ・多発が予想されるほ場では、穂揃期に追加防除を実施する。

(4) 斑点米カメムシ類

- ・注意報第1号(7月19日発表)を参照。
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r06chuiho01.pdf>
- ・防除情報第5号(8月2日発表)を参照。
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r06bojono05.pdf>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

—8月下旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:7月25～30日

天候予報:仙台管区气象台8月1日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
紫斑病	—	平年並

予報の根拠

- (1) 前年の子実調査の結果、発生量が平年並であったことから、伝染源量は平年並であると推測される。(/±)
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類 (ジャガイモヒゲナガアブラムシ)	—	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低く、寄生頭数は平年よりやや少なかった。(/—)

病害虫名	発生時期	発生量
ウコンノメイガ	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び葉巻数は平年並であった。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
吸実性カメムシ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/±)、寄生頭数は平年より多かった。(/+)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年より低く(/—)、寄生頭数は平年より多かった。(/+)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
フタスジヒメハムシ	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/±)、寄生頭数は平年よりやや少なかった。(/—)

病害虫名	発生時期	発生量
マメシクイガ	—	少

予報の根拠

- (1) 前年の子実調査の結果、発生量が平年より少なかったことから、越冬量は平年より少ないと推測される。(/—)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず

発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

・大豆の生育ステージをよく確認し、各病害虫に対して適期防除を行う。

※本年の開花期(大崎市古川)(古川試験場発表)

タンレイ(5/24 播種):7/23(平年差0日)

ミヤギシロメ(5/24 播種):7/29(平年差-1日)

・べと病及び土壤伝染性病害(茎疫病、黒根腐病)の発病を防止するため、明きょ等の補修・点検を行い、排水対策を徹底する。

・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は、『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

(2)紫斑病

・大豆の生育ステージをよく確認し、開花期の20～40日後に1～2回薬剤防除を実施する。

・QoI剤に対する感受性低下菌の発生が確認されているので、薬剤の効力低下が懸念される場合は、他系統の薬剤の使用を検討する。

※普及に移す技術第97号参考資料「ダイズ紫斑病のアゾキシストロビンに対する薬剤感受性低下」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/r3hukyuuugi25.pdf>

(3)アブラムシ類(ジャガイモヒゲナガアブラムシ)

・例年、8月下旬～9月上旬に密度がピークに達するので、多発した場合は防除を徹底する。

・防除後も密度が低下しない場合や、急激に密度が高まった場合には、薬剤の種類を変えて追加防除を実施する。

(4)ウコンノメイガ

・ほ場内の葉巻率又は葉巻数を確認し、要防除水準を参考に防除適期の8月上旬に速やかに薬剤防除を実施する。

※普及に移す技術第90号参考資料「ウコンノメイガの被害解析と要防除水準」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/305992.pdf>

(5)吸実性カメムシ類

・開花期以降に発生が見られるほ場では、着莢期から子実肥大中期を重点に2回以上薬剤を散布する。

・今後の発生がやや多くなると予想されるので、ほ場の発生状況に注意し、適期防除を実施する。

・越冬地(雑草地、山林等)付近では発生が多くなるおそれがあるので注意する。

(6)ハダニ類

・突発的に集中発生することもあるため、多発した場合は防除を実施する。

(7)フタスジヒメハムシ

・第2世代成虫の発生盛期(平年:8月下旬～9月上旬)に薬剤散布を実施する。

(8) マメシンクイガ

- ・発蛾最盛期とふ化盛期(8月下旬とその7～10日後の9月上旬)にかけて1～2回薬剤を散布する。
- ・連作ほ場や前年の発生が多かったほ場では、より効果の高い薬剤を選定する。

(9) 食葉性チョウ目幼虫(オオタバコガ、ツメクサガ等)

- ・中齢幼虫以上になると葉及び莢を加害し、被害が大きくなるので、早期発見・早期防除に努め、若齢幼虫期に薬剤防除を実施する。
- ・突発的に集中発生することもあるため、ほ場を注意して見まわる。

農薬危害防止運動施工中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー8月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月 25～30 日

天候予報:仙台管区气象台8月1日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、徒長枝及び新梢における発生地点率は、平年よりやや高かった(/+)。発病葉率は、徒長枝でやや低く新梢で平年並であった(/ー～±)。発病果は平年と同様にみられなかった。(/±)
- (2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び1葉当たりの寄生頭数はやや低かった。(/ー～±)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
キンモンホソガ	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より高かったが、被害葉率は平年並であった。(/±～+)
- (2)20～25℃の気温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ー～±)

病害虫名	発生時期	発生量
果樹カメムシ類	ー	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年並、被害果率は平年より高かった。(/±～+)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤの防除では低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は、病害虫の発生源になりやすいことから補完散布するとともに、不要な徒長枝を整理する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・DMI剤(FRACコード:3)、QoI剤(FRACコード:11)及びSDHI剤(FRACコード:7)並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年2回以内の使用とし、連用しない。
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。
- ・薬剤は、『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) 斑点落葉病

- ・徒長枝や二次伸長した新しい展開葉等における発生状況を観察し、防除を実施する。
- ・病勢が一時停滞したように見えても、高温多湿の気象条件が続くと再び病勢が進展するおそれがあるので、計画的に防除を実施する。
- ・不要な徒長枝等を取り除き、伝染源を減らすとともに薬剤が樹木全体に行き渡るよう管理する。

(3) ハダニ類

- ・ほ場をよく見回り、ハダニ類が1葉当たり3頭以上寄生している場合は防除を実施する。
- ・一部殺ダニ剤で効果が低下している事例がある。また、薬剤によっては寄生種や生育ステージにより効果が異なる場合があることから、発生状況をよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察する。

(4) キンモンホソガ

- ・現在発生している成虫は新梢葉を主体に産卵するため、新梢葉での発生状況に注意する。
- ・徒長枝にも多く寄生するため、不要な徒長枝は整理する。

(5) 果樹カメムシ類

- ・防除情報第6号(8月2日発表)を参照。
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r06bojono06.pdf>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー収穫期までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査: 7月 25～30 日

天候予報: 仙台管区气象台8月1日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、果そう葉における発生地点率は平年並で発病葉率は平年よりやや低く、新梢葉における発生地点率及び発病葉率は平年よりやや低かった。発病果率は平年よりやや低かった。(/ー～±)
- (2) 気温 20℃前後で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ー)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低く、1葉当たりの寄生頭数は平年並であった。(/ー～±)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
果樹カメムシ類	ー	多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び被害果率は平年より高かった。(/+)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒して降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

- ・品種による収穫期の早晩を考慮し、収穫前日数に注意して薬剤を選定する。
- ・薬剤は、『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) 黒星病

- ・発病部位は伝染源となるので、見つけ次第除去し、ほ場外へ持ち出して土中に埋めるなど適切に処分するとともに、不要な徒長枝を取り除き、薬剤が樹木全体に行き渡るように管理する。
- ・「幸水」は果実肥大後期でも黒星病に感染しやすいため、特に注意する。

(3) ハダニ類

- ・一部殺ダニ剤で効果が低下している事例がある。また、薬剤によっては寄生種や生育ステージにより効果が異なる場合がある。よってそれらをよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察する。
- ・発生の多いほ場では、薬剤防除等によりハダニ類の密度を低下させ、翌年の発生を抑えることが重要である。

(4) 果樹カメムシ類

- ・防除情報第6号(8月2日発表)を参照。
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r06bojono06.pdf>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装備の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

—8月下旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:7月25～30日

天候予報:仙台管区气象台8月1日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒斑病・葉枯病	—	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病度は平年より高かった。(/+)
- (2)多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギアザミウマ	—	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、被害度は平年より高かった。(/+)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギハモグリバエ	—	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び被害度は平年より高かった。(/+)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
シロイチモジヨトウ	—	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、寄生頭数は平年より多かった。(/+)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (−):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (−):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・ネギアザミウマ及びネギハモグリバエが平年より広域で多く確認されている。今後も被害の拡大が懸念されるため、ほ場をよく見回り発生に注意する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

・薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) 黒斑病、葉枯病

・草勢が衰えると多発する傾向があるので、適正な肥培管理を実施する。

(3) ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ

・ほ場内及びほ場周辺の雑草は、これら害虫の発生源となるので除草に努める。

・ネギアザミウマはウイルス病を媒介することがあるので、ほ場を観察し適切に防除を行う。

・従来のネギハモグリバエと異なり、著しい食害痕を呈するバイオタイプBの発生が広域で確認されているため、防除を徹底する。

(4) シロイチモジヨトウ

・定点調査ほ(名取市:農業・園芸総合研究所)のフェロモントラップ調査では、5月以降、継続的に飛来が確認されている。

・被害が見られた場合は、浸透性の高い薬剤を用いて速やかに防除を行う。

・本種は特に薬剤抵抗性の発達が早いため、IRACコードが同じ薬剤の連用を避けるとともに性フェロモン剤の使用や被害葉の除去、幼虫の捕殺などの物理的防除を組み合わせることで防除を行う。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装備の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

—8月下旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:7月25～26日(育苗ほ)

天候予報:仙台管区气象台8月1日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	—	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発病株率及び発生地点率は平年より高かった。(/+)
 (2)向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
炭疽病	—	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発病株率は平年より高かった。(/+)
 (2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、寄生株率及び発生地点率は平年より高かった。(/+)
 (2)向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
 発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- 適切な肥培管理及び予防防除を徹底し、健苗育成に努める。
- いちごの農薬使用回数は、親株からランナーを切り離れた時点から収穫終了までとなる。
- 本ほの初期病害虫発生原因の多くは育苗から持ち込みであるので、親株・育苗期間中もしっかり防除を行う。
- 施設周辺及び施設内の雑草は害虫の発生源なのでほ場周辺の除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、RACコードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。
- IPM体系による防除は下記を参照する。

※宮城県いちご IPM マニュアル 2019 年版(PDF:6,731KB) https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/ichigo-ipm.html

- ・定植後に天敵製剤や訪花昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- ・薬剤は『宮城県農作物病虫害・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2)うどんこ病

- ・最初に葉裏に発生しやすいので、こまめに葉裏を観察して早期発見に努め、発生初期に防除を実施する。
- ・夏季の高温で発病が一時減少するよう見えるが、菌糸で越夏し、気温の低下とともに蔓延するので、きちんと予防防除に努める。

(3)炭疽病

- ・発病株は伝染源となるので、ほ場内をよく見回り、見つけ次第早急にその周辺の株も含め抜き取り、適切に処分する。
- ・水滴の跳ね上がり等で伝染するので、育苗ほでは可能な限り頭上かん水は避け、かん水チューブや底面給水等によりかん水を行う。また、葉の濡れ時間が長くないよう遅い時間のかん水は避け、日没までに水滴が乾くよう実施する。
- ・高温多湿は病原菌の増殖に好適であるとともに、苗が軟弱になり炭疽病にかかりやすくなるとされるので、ハウスの排水対策を徹底する。また、遮光率の高い遮光資材はかけっぱなしにせず必要に応じて開閉し、ハウス内の日照量を増やすなどして健全育苗に努める。
- ・予防散布の徹底が重要であり、薬剤抵抗性の発達を防ぐため FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。ただし、QoI 剤 (FRAC コード:11) の耐性菌が確認されているので留意する。

※「普及に移す技術」第 89 号参考資料「QoI 剤耐性イチゴ炭疽病の発生と有効な防除薬剤」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/256498.pdf>

(4)ハダニ類

- ・気門封鎖剤は、対象害虫にかからないと効果が得られないため、植物体全体にムラなく散布するとともに、葉害が出やすいため、あらかじめ数株に散布して葉害の状況を確認する。
- ・スピロテトラマト水和剤の灌注処理を行う際は、薬剤をイチゴ苗に十分吸収させるため、灌注処理前の灌水は控える。灌注処理を行う際は、水圧は弱めにし丁寧に行う。
- ・ほ場により効果が低下している殺ダニ剤があるため、薬剤の選定に留意し IRAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病虫害防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL: 022-275-8982 FAX: 022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム